



関連部署にご回覧ください

LPGC Report

エルピーガス振興センターレポート

第35号 January 2008

☆ トピックス

- ・理事長新年ご挨拶…………… 1
- ・平成20年度予算(財務省内示)の概要…………… 2

☆ プロジェクトニュース

- ・世界LPガスフォーラム(ケーブタウン)参加報告…………… 3
- ・石油ガス流通合理化推進調査委員会の紹介…………… 6

☆ 各部・室からのお知らせ

- ・広報室 19年度液化ガス懇談会開催報告及び概要について…………… 7
- 『LPガスガイド2007 秋号』の紹介…………… 8
- ・設備助成事業室 高効率給湯器導入支援事業実施状況について…………… 9
- ・調査研究部 「LPガス国際セミナー2008」開催のご案内…………… 10

☆ 事務局からのお知らせ

- ・平成19年度第二回通常理事会・評議員会の開催案内…………… 11
- ・平成21年度 新規テーマ募集のご案内…………… 11

- ☆ 編集後記…………… 12

トピックス

◆理事長新年ご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

エルピーガス振興センターは、皆様よりのご支援・ご協力を賜りまして、昨年も各種事業の取組みを円滑に行うことができました。また今年で平成元年の当センター設立から20年目を迎えることとなります。厚く御礼申し上げますとともに、引き続き宜しく願い申し上げます。



2008年度につきましては、公益法人改革関連法の成立を受けて、昨年度より国の実施する事業への公募制の適用が本格的となったことなどから、当センターの事業も大きな影響を受け、前年度以上に不確定な要素が多い状況にあります。

当センターでは、これまでもLPガス産業活性化に向けて「技術開発」「調査研究」「普及啓発」「国際協力・交流」の4事業を推進し、また「広報」活動など様々な視点からの活動を実施してまいりました。技術開発におきましては、平成17年度よりDME燃料実用化の研究に取り組み、本年3月までに成果のとりまとめを行います。調査研究では、国内LPガス事業者の経営近代化の促進に向けた調査を行うとともに、LPガスの一層の安定供給の確保に向け、海外での供給源の多様化の調査を、継続実施しております。さらに、昨年3月に国家備蓄LPガスの緊急時における放出方法等の調査をJOGMECより受託し、昨年末にとりまとめを行ったところです。また、広報活動では、年間を通して全国各地で消費者を主対象にLPガス事情講習会を開催して、適正なLPガス取引環境の整備に努めております。国際交流では、2月28～29日にLPガス国際セミナー2008の開催を予定しております。このセミナーは年々好評を頂いておりますので、今年も、皆様からのご期待に沿えるように、充実したものにしたいと思っております。

エネルギー価格の高騰など、LPガス業界はこれまでにない局面にあります。LPガスの代替・補完燃料となりうるDMEの研究成果をはじめ、センターが実施しておりますこれら事業と活動の成果が、業界の健全なさらなる発展の一助として皆様に十分にご活用頂けるよう、その普及・啓発にも一層力を注いでまいります。

特に本年度は、本格化した公募制に適確に対応するとともに、事業内容のさらなる充実を努めて、センターに求められるLPガス産業の活性化という本来の使命を遂行するため、全力を傾けて行く所存です。

会員の皆様方には、引き続きセンターの事業・活動に対しまして、何とぞご指導、ご鞭撻のほど宜しく願い申し上げます。次第です。

新しい年が皆様にとりまして、実り多い年であることを祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。



◆平成20年度予算(財務省内示)の概要

昨年末、財務省より平成20年度政府予算案が各省に提示され、その中でLPガス関係の予算の概要は次の通りとなっています。

昨年度より、事業の委託先等の選定については公募制での競争入札が原則となり、適用されています。当センターとしても、これまで取り組んできた事業を継続するとともに、新たな事業を実施する上からも、事業提案の内容をより充実すべく全力で対応してまいります。皆様方のご支援、ご協力をお願いする次第です。

| | (20年度) 内示額 | (19年度) 予算額 | (増 減) |
|-------------------------|-----------------|-----------------|-----------|
| 1. 流通合理化関係 | | | |
| 石油ガス流通合理化対策事業 | 1,111 | 1,294 | △ 183 |
| 内、石油ガス配送合理化推進事業 | (180) | (180) | (0) |
| 内、石油ガス販売事業者構造改善支援事業 | (599) | (782) | (△ 183) |
| ※ 内、石油ガス国際交流事業 | (23) | (23) | (0) |
| 石油ガス流通合理化対策調査 | 530 | 585 | △ 55 |
| ※ 内、石油ガス流通合理化調査 | (236) | (86) | (150) |
| ※ 内、石油ガス流通実態調査 | (33) | (33) | (0) |
| 内、石油ガス品質対策調査 | (150) | (355) | (△ 205) |
| 計 | 1,641 百万円 | 1,879 百万円 | △ 238 百万円 |
| 2. エネルギー使用合理化関係 | | | |
| 石油ガスコージェネ導入促進事業 | 61 | 61 | 0 |
| 石油ガス高効率厨房機器普及促進事業費補助金 | 437 | 437 | 0 |
| 計 | 498 百万円 | 498 百万円 | 0 百万円 |
| 3. DME燃料実用化・LPガス供給多様化関係 | | | |
| ※DME燃料実用化普及促進研究委託 | — | 216 | △ 216 |
| DME混合燃料利用技術調査 | 50 | — | 50 |
| 計 | 50 百万円 | 216 百万円 | △ 166 百万円 |
| 4. 燃料電池関係 | | | |
| 高耐久性メンブレン型LPガス改質装置開発 | 80 | 90 | △ 10 |
| 計 | 80 百万円 | 90 百万円 | △ 10 百万円 |
| 5. LPガス保安対策関係 | | | |
| 石油ガス供給事業安全管理技術開発等委託費 | 613 | 684 | △ 71 |
| 計 | 613 百万円 | 684 百万円 | △ 71 百万円 |
| 合 計 | 2,882 百万円 | 3,367 百万円 | △ 485 百万円 |
| 6. なお、上記の他に | 219.7 億円 | 185.5 億円 | 34.2 億円 |
| 高効率給湯器導入支援事業 | 8.9 | 9.9 | △ 1.0 |
| LPガス国家備蓄の推進 | 202.2 | 170.6 | 31.6 |
| LPガス民間備蓄の推進 | 8.6 | 5.0 | 3.6 |

(注) 上記※印の項目は 平成19年度において当センターが入札等に参加し、実施している事業。

プロジェクトニュース

◆世界LPガスフォーラム(ケープタウン)参加報告

第20回WLPGA総会・フォーラム概要報告

- 1)開催期間：10月24日 8:30～10月26日16:30の3日間
- 2)開催地：南アフリカ共和国ケープタウン(Cape Town International Convention Centre)
- 3)主催者：World LP Gas Communication SARL, for World LP Gas Association (WLPGA)
Web: www.worldlpgas.com
- 4)参加者：公表登録者名簿では、参加国=52か国、登録者数=700余名
当センターからは、理事会に加藤理事長、フォーラムに調査研究部 西浦総括主任研究員が出席
- 5)概要：

「暮らしへの補給」(fuelling life)をテーマに南アフリカで開催。

アフリカ大陸には多くの途上国があり、エネルギーに関しても多くの課題を抱えている。これらの課題の解決方法を人々の環境を改善するという切り口で探り、LPGをいかに活かし、教育を含む生活水準の向上に結びつけるかについて議論した。

同協会事務局によれば、今回の講演会参加者はアフリカ諸国、欧州、米州、中東、アジアから約50ヶ国、総勢420名以上にのぼり、60近い講演とセッション毎の意見交換が行われた。展示会も隣接する会場で開催され日本企業も含め70以上のブースで多数の商談が行われていた。見学者も含め総参加者は1000人以上と思われる。多くの米国企業が参加した昨年のシカゴ大会の参加者数までは届かなかったが、展示会場のブースは全て埋まり、協賛総額も当初の予定以上と事務局はコメントしていた。

会場はシェラトンホテルに隣接する最新のコンベンションセンターの大ホールを使用し、施設規模は東京国際フォーラム以上であった。当日はTVカメラを駆使し、舞台の両面には、スクリーンが備えられ視覚的にも豪華な講演会を演出していた。しかしながら、講演会の最終日には聴衆は会場収用人員の4割弱程度まで減少していた。

開会の挨拶や3日間それぞれの基調講演者の陣容は、ケープタウン副市長、国連開発計画理事、世界銀行等の幹部、特に各途上国LPガス促進組織を含む公的機関の要人も多数を占め、重要な国際会議であることを印象づけていた。10月末に来日したソンジカ南ア鉱業・エネルギー大臣、南ア副大統領、そして最終日にはナイジェリア資源大臣も参加した。加えて Shell, BP, Total, Chevron, Reliance などの多国籍企業の役員・上級管理職も議長としてセッション形式のパネリストの講演を巧みにリードし、聴衆からの質疑応答を手際よく纏めていた。

今回のフォーラムの主眼はアフリカ大陸のエネルギー事情の改善・発展、LPガスの優位性をどのような手法で導入していくかであり、特に初日のプログラムでは終日アフリカに焦点があてられていた。

3日間の概要は以下の通りである。



世界LPガス協会 ケープタウンフォーラム

【第1日目】南ア大臣、国連、世界銀行、各国協会幹部、多国籍企業・国営石油会社上級職

1. 世界人口の半分近くの30億の人々が生活に必要なエネルギーを薪や牛糞等(バイオマス)に依存している。
2. 薪やバイオマスでの調理・暖房による煙が原因で世界で毎年39万人が犠牲になっている。
3. 薪やバイオマスの調達に女性は女性・子供がその役目を果たし、調達に要する時間(一説には平均5km以上の歩行を伴う)と重い荷を運ぶため弱者の健康阻害要因となるばかりでなく子供の教育の時間も奪われている。
4. 配管敷設を伴う天然ガスや二酸化炭素排出量など環境対応に劣る灯油などに比べると、LPGは分散型で利便性が高く、途上国には最善のエネルギー源と考えられる。
5. アフリカ大陸で世界の10%弱のLPGが生産されるが、北部西部に集中しサハラ以南地域には生産国は少ない。
6. アフリカ大陸では電気は人口の10%程度の普及率しかない。
7. アフリカ諸国においてLPGを普及させる共通の条件として以下の事項がある。
 - * 企業間取引の透明性の確立
 - * 国内外関係者から見て明瞭な関係法令の整備
 - * 市場参入の容易さと市場価格の透明性
 - * 市場参入(海外投資企業)時の受入れ国の支持
 - * 基礎的物流網整備時の受入れ国の支持
8. アフリカは海外企業の投資を歓迎しており特に南ア大臣は今が最適の時機と強調していた。

【第2日目】P&G社、SHV社(蘭の国際的LPG中流事業者)、Geoガス社(スイス)、Argus社

1. 当センターと同様の内容の国際需給見通しが中心であった。留意点は以下の通り。
 - * 原油高でLPGも最高値、高価格が途上国の消費を抑制している
 - * 原油高で経済性が高まり中東の産油国の原油・LNG開発が促進されLPGの生産は拡大
 - * LPG市場の現状は供給先導型市場である
 - * 中国・インドの輸入需要は少なくともしばらくは横ばい、中長期的に国際市場への影響は必至
 - * 2007年のLPGの供給は拡大したが、規模は予想以下に留まりそう
 - * 家庭業務用市場は価格上昇のため、増加が抑制され、余剰品は石油化学需要に向かう
 - * 石油化学需要は価格に敏感な市場でありかつ原料転換、LPG消費の増減が容易
 - * LPG価格は原油価格に影響を受けるが供給余剰により軟化傾向の可能性あり
 - * 生産国の開発速度は鉄鋼等資材の調達遅延もあり、計画より遅れる可能性あり
2. 2007年は一見すると
 - * 80ドル原油高時代、LPG価格は700ドル(いずれも講演時の市況)、投資資金流入により価格高騰、LPG生産拡大は予想量以下、LPGの石化需要増加、海上貿易量の記録的な増加、LPGは過度期を迎えている
 - * 「過度期」とは: 2年間の超高値が末端需要を極度に抑制し始めた事。投資ファンドの資源価格への介入と石化需要拡大が小売り産業の構造を弱体化させた。高価格で取引額が高騰しリスク管理は重要性を増す
3. 通常の時況分析や各国際市場の価格情報提供を得てとするアーガス社も環境を意識した講演であった
 - * 気候変動とLPGの特性(気候変動に関する条約の解説)
 - * 世界の気温の上昇と二酸化炭素排出等の詳細が掲載された科学誌の紹介
 - * モントリオール・京都議定書内容の紹介
 - * LPGの環境対応性と各国際機関の評価
 - * 「過度期の燃料」として最適: 化石燃料とクリーンエネルギー・原油と天然ガス両者から生産可能・温室効果ガスの排出抑制効果・ハイブリット燃料として効果ガスを抑制可能

【第3日目】インドリアランス社製油所部門社長、米国プロパン教育協会会長、ブラジルウルトラガス上級管理職、欧州・豪州・印度・ナイジェリアLPG協会、ナイジェリア経産相・韓国LPガス協会会長

1. LPG利用の途上国での現状分析・普及の意義
2. インド最大唯一の民間財閥系会社のLPG政策とインド市場
3. 成熟市場での新規LPG関連利用法と潜在需要の喚起(例:米国・先進欧州諸国のバーベキュー燃料需要拡大の潜在性・太陽光とのハイブリット・GHP)
* 日本の技術関連事業の発表をWLPGA事務局から要請されていたが該当講演者はなかった。
4. 世界各国のLPG普及・啓蒙政策の成功例・失敗例
5. 各国オートガスの普及政策(インド、オートガス先進国である韓国の成功事例)
6. 来年の開催国である韓国(ソウルで9月実施)の紹介と関係代表者の講演



インド リライアンス社
製油所事業担当社長の基調講演

6) 所感 :

世界LPガス協会の主眼はLPガスの特性を活かした家庭業務用需要を中心とした普及であり、講演の多くは下流事業者・所管大臣や政府高官の政策・国連や世界銀行の高級管理職が中心となる。ただし、事務局責任者のコメントとしては、今後は主要生産国(アラムコ、KPC、ソナトラック等)の動静や政策に関する意見交換も積極的に取り入れたいとしていた。実際主要生産国も同協会のメンバーであるが参加する会社はなく、西アフリカの資源輸出国ナイジェリア(LNGとその随伴によるLPGは年間170万ト)も国内の消費は僅か6万ト程度で、政情の安定と政策・インフラ確立を急務としている。ナイジェリア国内の事業者や担当大臣が積極的に参加していたが、同国の国際貿易政策の説明はなかった。

フォーラムに先駆け22日には同会場で、世界LPガス協会の理事会(世界各国から9名の理事で構成)が開催された。席上、メンバーである武内前当センター理事長が退任し、新たに他国の候補者の中から当センターの加藤理事長が理事候補に選任され、この後開かれた同協会総会にて満場一致で承認された。

また、世界LPガス協会の定期会議(理事会:ボードミーティング、産業委員会、技術委員会、オートガス委員会)が国際セミナーの時期に合わせて、来年2月25-27日間第一ホテル東京にて開催されることが決定した。対象の理事や委員である各国のメンバー20名前後は国際セミナーに引き続き参加することが見込まれる。

来年度(2008年)以降のWLPGA総会

第21回総会 2008年9月24~26日

韓国ソウル 世界技術会議第二回(GTC2)を併催予定

第22回総会 2009年

ブラジルサンパウロを予定

○展示会関係

- 1)開催期間 : 10月24日~26日の3日間
(各日:9:30~18:00)
- 2)出展者・特徴 : 全体では72ブース

韓国LPG協会のブースでは世界最大の自動車用需要国を積極的にアピールし、2008年度の韓国総会への参加をPRしていた。加えて同国の観光案内用の豪華パンフレットも配布していたのが印象的であった。



盛況な展示会風景

(調査研究部 西浦総括主任研究員)

◆石油ガス流通合理化推進調査委員会の紹介

平成19年度は4回の委員会を実施致します。第1回委員会は8月3日、第2回委員会は9月24日、第3回委員会は12月11日に航空会館で開催致しました。第4回委員会は、2月7日(虎ノ門パストラル)に開催致します。

委員会の実施内容は以下の通りです。

<第1回委員会>

平成18年度にLPガス構造改善支援事業で採択された27項目の調査結果を当センターで各項目を4～5ページに取りまとめ、概要版を作成し、委員会で報告致しました。

第2回委員会以降は、平成18年度LPガス構造改善支援事業採択事業者によるプレゼンテーションが実施され、各プレゼンテーション後に委員会でLPガス産業の業界として、どう取り組むべきかについて検討が行われました。

<第2回委員会 9月24日開催>

【実施されたプレゼンテーション】

| | |
|---|---|
| 1) 「LPガス取引の適正化について」 (消費者の立場に立った消費者相談の対応及び改善に関する調査) | (社)全国消費生活相談員協会 エネルギー問題研究会 大内美喜子 氏 |
| 2) 「LPガス料金低減と利用促進を図る消費設備費用負担方法と料金制度検討のための調査」 | (社)大分県エルピーガス協会 課長 利光矢 氏 |
| 3) 「超軽量LPガス容器によるCO2削減効果・安全度・技術可能性調査」 | 中国工業(株) 事業開発部部长 細川光一 氏 |

<第3回委員会 12月11日開催>

【実施されたプレゼンテーション】

| | |
|--|---|
| 1) 「LPガス物流部門の勤務体系改善によるコスト低減、並行しての社員の意識及び需要家の評価に関する調査」 | (株)三愛ガスサプライ関東 代表取締役 橋本 昭 氏 |
| 2) 「配送効率化のための業務管理に関する調査」 | (株)ミノス 取締役社長 残間修司 氏 取締役営業部長 亀山勇 氏 |
| 3) 「一次基地からのLPガス輸送業務におけるモーダルシフトによる物流コストの低減、並びにCO2排出量削減効果に関する調査」 | (株)ジャパンエナジー LPガス部 参事 土谷朋丈 氏 |

<第4回委員会 2月7日開催>

| | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 1) 「新料金メニュー適用による料金体系統合と経営効果」 | 三木産業(株) 常務取締役 橋本 雅彦 氏 |
| 2) 「災害時における事業継続の取組み実態とあり方に関する調査」 | (社)全国エルピーガス卸売協会 WG委員 丸山 修二 氏 |

(調査研究部 齊藤総括主任研究員)

各部・室からのお知らせ

◆広報室

19年度液化石油ガス懇談会開催報告及び概要について

平成19年度液化石油ガス懇談会は、9月から11月にかけて全国各地で開催され、活発な意見交換が行われました。

今年度は、消費者委員から特に、「輸入価格高騰に伴う小売価格への影響について」、「LPガスの災害対応性をもっとPRすべし」、「販売店が高齢者家庭を訪問する際、声をかけるなど、高齢者を見守るネットワーク機能を果していただくとうりありがたい」「LPガスは環境に優しいエネルギーとのことだが、CO₂の排出量は他燃料と比べてどの程度か」などの疑問や意見が出ています。



1. 消費者委員からの主な質問、意見

(1) LPガス価格関連

- ・基本料金、従量料金など料金内容が不透明、との意見があるが業界の今後の対応についてお聞きしたい。
- ・輸入価格高騰に伴い小売価格の地域格差の拡大や値上げによる都市ガスとの価格差拡大を心配している。
- ・価格表が配布されていないケースがある。業界の対策をお聞きしたい。

(2) 売買契約関係

- ・契約解約時の設備（配管）代請求に関するトラブルが多い。販売事業者は、消費者に対し、契約内容を詳しく説明することが必要である。
- ・14条書面の交付が徹底されていない。業界の対策をお聞きしたい。

(3) 保安関係

- ・高齢者の燃焼器具故障などによる事故が発生しており、取扱方法や使用期限の周知徹底が必要である。
- ・高齢者に優しい安全なガス機器の開発を進めていただきたい。

(4) 広報

- ・災害時のLPガスの優位性をもっとPRすべきである（LPガスのある暮らし夏号の記事は大変良かった）。
- ・オール電化が普及しつつあるが、その対抗のためにもLPガスの特長（環境優位性、災害対応性など）について更なるPRが必要である。
- ・供給設備の無断撤去の際の危険性を周知させる必要がある。

(5) 供給（原油需給、価格関連）

- ・原油高騰に伴い、LPガス価格も上昇しているが、今後の価格見通しについてお聞きしたい。
- ・海外からの輸入に頼っているエネルギーだが、安定供給のための備蓄は大丈夫なのかお聞きしたい。

(6) 災害対策

- ・災害時に避難拠点となる施設に災害に強いLPガス設備を常設する動きを、促進していただきたい。
- ・中越沖地震でLPガスの復旧が早く災害に強いことを認識した。

(7) その他

- ・LPガス販売店が検針などで高齢者の家庭を訪問する際声をかけるなど、高齢者を見守るネットワークの機能を果していただくとうりありがたい。
- ・LPガスと電気との比較でCO₂排出量がどう違うか伺いたい。

2. 業界他からの主な回答例

- ・基本料金と従量料金の明確な表示が徹底されていない点については、業界として今後とも一層の周知徹底を図りたい。また、料金表の確実な配布についても徹底していきたい。
- ・販売事業者は、設備の所有区分や、配管の撤去の際の費用負担など、契約内容について明確にすべく、今後とも消費者とのコミュニケーションを取っていききたい。
- ・輸入価格が急激に上がっているが、LPガス業界も配送コストなどの削減努力をし、合理化を進めて仕入価格の高騰を吸収するべく努力している。
- ・新しいガス機器は安全対策や利便性も含め非常に優れおり、高齢者の皆様にも使いやすいものとなっている。
- ・都市部での災害対策として避難拠点となる施設にLPガス設備を常設する動きについては、公共施設や指定避難場所への設置とともに、災害時に避難場所を提供する民間事業者に、国から設備設置費用の一部を補助する制度が設けられている。
- ・自動検針や自動振込などが増え、消費者とのコミュニケーションが少なくなっているケースもある。高齢者のお宅へ伺う際はできるだけ声をかけ、コミュニケーションをとるようにしていく。

主として以上のような意見交換がありました。この内容を参考に、今後各部門での対策・対応が望まれます。

3. 液化石油ガス懇談会開催日程(中央懇談会、地方懇談会9地区)

| (開催順) | 開催日 | 開催場所 |
|-----------|-----------|----------------|
| ①中央懇談会 | 9月 7日(金) | 虎ノ門パストラル |
| ②東北経済産業局 | 10月 5日(金) | 法華クラブ仙台 |
| ③沖縄経済産業部 | 11月 5日(月) | 沖縄総合事務局会議室 |
| ④中国経済産業局 | 11月 9日(金) | 八丁堀シャンテ |
| ⑤関東経済産業局 | 11月19日(月) | 三菱ビル会議室 |
| ⑥近畿経済産業局 | 11月20日(火) | 阪急ターミナルスクエア |
| ⑦中部経済産業局 | 11月22日(木) | クレール名駅 |
| ⑧北海道経済産業局 | 11月26日(月) | 札幌第一合同庁舎会議室 |
| ⑨九州経済産業局 | 11月28日(水) | 福岡県中小企業振興センター |
| ⑩四国経済産業局 | 11月29日(木) | 高松サンポート合同庁舎会議室 |

『LPガスガイド2007 秋号』の紹介

広報室では、LPガス(プロパンガス)をお使いの一般消費者向け啓発活動の一環として各種パンフレットを発行しています。今回は、前年度末(3月末)の新しいデータを掲載できるよう発刊時期を春から秋に改めることといたしました「LPガスガイド 2007 秋号」をご紹介します。

LPガスガイドは、LPガス(プロパンガス)の概要、特性、需要と供給、料金と価格、取引関係、災害対応、保安と安全など全般的な項目をお知らせする広報パンフレットですが、料金と価格に関することや消費者と販売店との間の取引に関するお知らせについて分かりやすく掲載している点で他にないパンフレットです。今回は災害対応や保安と安全などの項目を充実させています。



主な内容は次のとおりです。

『LPガスの基礎知識』

LPガスの性質(都市ガスとの違い等)流通経路、需要と供給、供給と備蓄(国家備蓄等)などの紹介。

『環境に優しいLPガス』

地球環境に優しいLPガスの特長やエネルギー効率が良く、環境にも優しい高効率ガス機器のなどの紹介。

『災害に強いLPガス』

分散型エネルギーの特長を活かし、地震など災害時に復旧が早く、仮設住宅や避難所でも活躍していること。そして、都市ガスエリアでも災害時に備え、LPガスを常用する施設を導入する動きのあることを紹介。

『LPガスの保安と安全』

マイコンメーターなど安全機器の普及と販売事業者の保安点検などの実施で事故が激減した経緯や各種安全器具、販売店の保安業務、集中監視システムおよび家庭用ガス機器等の安全認証マークなどの紹介。

『LPガスの料金と安全』

LPガスが自由料金であることや代表的な料金制度、流通段階ごとの価格推移、小売価格の地域間格差、小売価格に占める流通段階ごとの経費内訳などの紹介。

『LPガスの取引』

販売事業者と消費者との間の契約に関するお知らせや注意事項、各都道府県の相談所に寄せられた相談内容別の件数などの紹介。

◆設備助成事業室

高効率給湯器導入支援事業実施状況について

本年度は、昨年度末に計画変更承認した225件(潜熱回収型給湯器56件、ガスエンジン給湯器169件)の補助金交付業務を実施しております。

現在の交付決定実勢(実績、見込み)は、潜熱回収型給湯器で35件(63%の執行率)、ガスエンジン給湯器で107件(63%の執行率)となっております。

交付申請書の受付業務は昨年末で終了となり、20年2月末の最終交付に向けて書類審査、現地調査を進めております。

なお今年度事業とは直接関係ありませんが、間接補助事業者の都合(LPガスから都市ガスへの燃料転換、オール電化への変更に伴う撤去、事業縮小に伴う撤去等)によって、交付済みの補助金を国へ返還する事例が4件(潜熱1件、ガスエンジン3件)発生しました。

補助事業に携わる者としては非常に残念な思いがした事案でした。

◆調査研究部

「LPガス国際セミナー2008」開催のご案内

さて、当センター恒例の国際交流事業の一環であります国際セミナーにつきましては、本年度も『LPガス国際セミナー2008』としまして、下記にて開催いたしますので、ご案内申し上げます。

今回は、『変化する世界のLPガス需給—更なる需要拡大に向けて—』を主テーマとして、中東のLPガス主要輸出国およびアジアのLPガス主要消費国並びにLPガス関係機関・団体等から多くの方々にプレゼンテーションしていただく予定にしておりますので、皆様方の積極的なご参加をお願い致します。

なお、28日のセミナー終了後に歓迎レセプションを開催致しますので、多数の方々にご参加いただきたく、あわせてご案内申し上げます。

【セミナー開催概要】

1. 開催日：平成20年2月28日(木)9:30-20:00頃 (28日の終了時刻は歓迎レセプションを含んでおります)
29日(金)9:00-12:30

2. 開催場所：第一ホテル東京(新橋) 5階「ラ・ローズ」
東京都港区新橋1-2-6 電話:03-3501-4411

3. セミナー内容:

①主テーマ『変化する世界のLPガス需給—更なる需要拡大に向けて—』

②スケジュール概要:

現在1月末を目途に調整しております。確定次第、当センターホームページ(www.lpgc.or.jp)に掲載致しますので、ご覧下さいようお願い申し上げます。

その後も、変更がある場合は、都度ホームページにてご連絡申し上げます。

<第一日目> 2月28日(木)

「セミナー」9:30-17:30(受付開始 9:00)

基調講演(ポータン・アンド・パートナーズ社)

日本側講演

海外招聘者の講演

「セミナー」終了後「歓迎レセプション」を開催いたします。

<第二日目> 2月29日(金)

「セミナー」9:00-12:30(受付開始 8:30)

海外招聘者の講演

総括質疑応答

③通訳：日・英 同時通訳付き

4. 参加費：無料

5. 参加申し込み:

お申し込みは当センターのホームページからとさせていただきます。

ホームページの案内に従い、ご参加者お一人様ごとにお申し込み下さい。

皆様のご支援のお陰をもちまして、本セミナーは非常に盛況となっております。少しでも多くの方にご参加いただけるよう収容可能人員の増大を図っておりますが、会場の物理的制約、同時通訳機器の技術的制約等から限界もあります。

お申し込みは会員の方を優先させていただきますことから、準備の関係上、セミナーにご参加いただける会員数を早めに把握させていただきたく、1月31日(木)までにお申し込み下さいますようお願い致します。

事務局からのお知らせ

◆平成19年度第二回通常理事会・評議員会の開催案内

当(財)エルピーガス振興センターの平成19年度第二回通常理事会及び評議員会の開催を下記の通り予定しております。

日 時 : 平成20年3月14日(金) 評議員会 13:00～ 理事会 15:00～

場 所 : 虎ノ門パストラル 新館4F(プリムローズの間)

議 案 : ①平成20年度事業計画及び収支予算

(予定) ②平成19年度の事業進捗状況及び収支見通し(報告)

③理事選任

④監事選任

⑤評議員委嘱

⑥その他

◆平成21年度 新規テーマ募集のご案内

当センターでは、LPガス関係業界の要望に沿うべく、従来より事業テーマを募集してご意見を寄せていただき、その内容をとりまとめて業界の要望テーマとして当局へ提出し、予算化と事業化に努めております。

現在、「平成21年度新規事業テーマ」の募集を行っておりますので、ぜひ奮ってご応募をお願いいたします。

厳しい国の財政事情の中でのテーマの選定となるため、募集テーマには下記のような厳しい条件や制約が付され、厳選が求められています。センターとしてもテーマを応募頂いた時点で、こうした制約・条件への適合を様々な面から検討して、応募頂く方の考えや意見を反映させ、事業化につなげたいと考えています。ぜひ積極的なご応募をお願い致します。

平成21年度事業テーマ提案書に記載の上、平成20年2月29日(金)までに、ご応募下さいますようお願い申し上げます。(テーマ提案書ならびに詳細は、当センターホームページ(www.lpgc.or.jp)に掲載しておりますのでご参照下さい)

なお、ご提案頂くにあたりまして、図表・絵などを用いて、具体的内容や実施による効果(見込み)などをお書き頂けると関係者の理解や支援が得られやすく、効果的です。

また、企業・団体からの委託につきましても、当センターの自主事業として注力して参りたく、これらに対するご提案も併せてお願い申し上げます。

編集後記

皆さま、新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

年が明けて最初に飛び込んできたニュースは、またもや原油価格が高騰というものでした。ニューヨーク商業取引所の原油先物相場で、WTI価格が100ドルを超え、史上最高値を2日連続で更新したとのことでした。波乱の継続を予測させる幕開けとなりました。LPガスについても昨年は12月CPが860ドルと高騰で越年し、各方面に不安の種を投げかけている状況です。

原油価格が急騰している中、せめてLPガスが安定的な価格を保つことができれば、LPガスに対する消費者の見方も大きく変化する、ひいては需要の拡大にも大きく貢献するのではないかと思うのですが・・・LPガスの輸入価格は必ずしもその時点の需給動向や原油価格がそのまま反映されている訳ではありません。産ガス国、ガス消費国がともにLPガスのメリットを享受できる価格のあり方というものを、中長期的観点から考えてみてもいいのではないのでしょうか。

本文でも紹介しましたように、今や恒例になりましたLPガス国際セミナーを、2月28、29日の両日、第一ホテル東京で開催いたします。産ガス国、消費国がともに手を携えて明るい未来を築くためにはどうすればよいのか、いろいろな観点から議論が交わされることを期待しております。LPガスを取り巻く情勢は大きく変化することが予想されており、戦略的視点から、今後のLPガスのあり方について検討することが必要ではないのでしょうか。

今年は、7月に北海道の洞爺湖でG8サミットが開催されることになっています。主要テーマとして、「環境・気候変動」が取り上げられます。また、京都議定書の削減目標の約束期間に入る年でもありますので、地球環境には大いに注目が集まることになるでしょう。LPガスはCO2削減に大きな効果があるので、もっと積極的に需要拡大が図られるべきだと思います。PRの絶好のチャンスでもありますので、効果的なPRができるよう関係方面と協力していきたいと考えています。

振興センターは、国際協力や広報事業のほかにも、技術開発や調査などの活動を引き続き実施してまいります。変化の激しい中ではありますが、中長期的視点を忘れることなく、着実な事業展開を進めて参りたいと考えております。しかし、関係者のご支援が無ければ、前進はありえません。是非、本年も皆さまからのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



**PG
CENTER**

財団法人 **エルピーガス振興センター**



〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目 19 番 5 号 虎ノ門一丁目森ビル4F

TEL : 03-3507-0041 (代表)
03-3507-0046 (広報室)

FAX : 03-3507-0048

ホームページURL : <http://www.lpgc.or.jp>

E メールアドレス : info@lpgc.or.jp



【送付先変更等のご連絡は、FAX又はEメールでお願いします】